

いわみざわ男女共同参画マガジン

# ア・ライク

ア・ライク(A'like)～共に生きる～  
〈同様の・等しく〉という意味を持ちます。

2012年 VOL.10



## コンテンツ

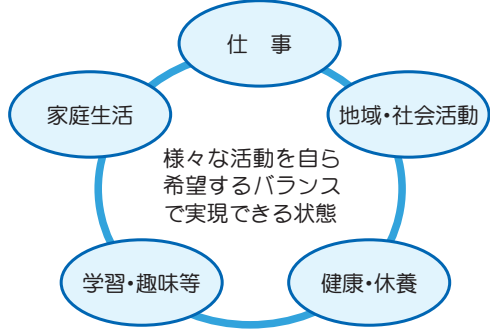
- 特集 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- あ・らいくな人
- いつ起こるか分からない災害に備えて  
「女性の視点による防災・災害復興のすすめ」より

特集

# ワーク・ライフ・バランス

# (仕事と生活の調和)

ワーク・ライフ・バランスのイメージ



ワーク・ライフ・バランスとは、老若男女誰もが、仕事と家庭生活や地域生活など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のことをいいます。

仕事と家庭、仕事と家事・育児の両立という、働く女性の問題としてとらえられがちですが、生活とは家事や育児・介護だけではなく、趣味や学習、地域活動などのように、仕事以外の活動全てを意味しています。仕事と生活の調和は、誰もが直面している課題と言えます。

「責任ある仕事をしながら自分の生活も充実させたい」「家族との時間を大切にしたい」など、豊かな生活を実感できるような多様な選択が可能な社会の実現が大切です。

仕事中心の働き方の見直しとともに、企業の主体的な取組みも必要です。ワーク・ライフ・バランスの実現は、働きやすい職場の環境づくりから始まります。

ワーク・ライフ・バランス3つのポイント!

ポイント1

子育て期の女性だけでなく、老若男女あらゆる人のためのもの

ポイント2

人生の段階に応じて自ら希望する「バランス」を決めることができるもの

ポイント3

「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環をもたらす

子育て中の仕事探しは「マザーズ」で!

## ハローワーク岩見沢にマザーズコーナーが誕生!

子育てをしながら再就職を希望している方が、子ども連れでも気軽に相談できる窓口として、平成23年12月、ハローワーク岩見沢にマザーズコーナーが設置されました。



### 子育て中の女性等のための就職相談窓口

【主な支援内容】

- ✳️ 担当者制による就職支援  
担当者制により一貫した支援を行っています。
- ✳️ 子ども連れの方が来所・相談しやすい環境  
専用の相談窓口とキッズコーナーが設置されています。
- ✳️ 子育てを応援する保育関連情報の提供  
相談窓口において保育関連情報を提供しています。



【問合せ先】ハローワーク岩見沢  
岩見沢市5条東15丁目7番地7  
岩見沢地方合同庁舎1階  
0126-22-3450(平日8:30~17:15)

## 事業所紹介

### 岩見沢ヤクルト販売株式会社 乳幼児保育クラブ ぞうさん

(平成5年開設)

岩見沢市内で、早くから事業所内保育に取り組み、積極的に仕事と子育ての両立支援を進めている「岩見沢ヤクルト販売株式会社」と「医療法人緑光会野宮病院」にお話を伺いました。

### 医療法人 緑光会野宮病院 院内保育所 ほのぼの

(昭和58年開設)

病院の敷地内に建てられた保育所の中では、子どもたちが元気に遊んでいました。

事業所の2階では、子どもたちの元気な声が響き渡っていました。

## 教えてください

### 開設のきっかけ

「若いお母さんたちにもヤクルトで働いてほしい」という思いから、スタッフが安心して子どもを預けて仕事ができるよう、事業所内保育を開設しました。



「優秀な看護師を確保したい」という思いと、「働きたいが子どもを預ける場所がない」という双方の思いを実現するために、昼夜の勤務体制に合わせて、安心して子どもを預けられるよう、院内保育所を開設しました。



施設の利用経験があるスタッフも多く、子どもの発熱など急なお迎えや休みが必要な時でも、お互いに協力し合う体制ができていますので、安心して仕事ができます。

### 特色

病児保育にも対応しているため、仕事を休むことなく安心して預けることができます。また、病院の敷地内にあるため、いつでも子どもの様子を見ることができ、安心して仕事に集中できます。

### 利用状況と保育時間

1歳~4歳までの子どもたちが8名程利用しています。不定期利用を含めると12名の登録があり、一時預かりも行っています。夏休みなどの長期休暇の時期には、兄弟も遊びに来ます。保育時間は7:30~15:00ですが、仕事の状況によって延長保育も行います。



0歳から就学前の子どもたちが毎日5名程利用しています。現在、不定期利用を含めて25名の登録があり、一時預かりのほか小学生の利用もあります。

基本的に通年保育(24時間)をしています。病院の勤務体制に合わせ、日勤(8:45~18:45)と夜勤(15:45~9:15)の保育体制になっています。

### 利用者の声から

早くから集団生活の経験ができるので、幼稚園に行っても安心です。

お昼休みや仕事の途中でも、子どもの様子を知ることができるので安心です。

何かあっても、仲間がすぐに応援してくれるので、安心して子どもを預けて働けます。



小学生になってからも利用できるのととても助かっています。

出産後も気兼ねなく授乳させることができるので、安心して働くことができます。

子どもの様子を見に行けるので安心できます。





ひにし まさこ  
日西容子さん

北海道指導農業士  
いわみざわ農協女性部栗沢支部  
くりさわマンマの会・秋日和  
栗沢町越前で、水稻、秋小麦、ブロッコリーなどの栽培と合わせて、花き（特許ひまわり）を栽培。



ホテルマンだった夫が、突然「仕事を辞めて農業をやりたい」と言い出し、昭和50年に私の実家に就農しました。

昭和61年に経営移譲されたのを機に、家族経営協定を締結しています。労働報酬等を話し合いで決めるなど、地域では早い取り組みだったと思います。

移譲後は、水稻中心から、人参づくりを導入した複合経営にしました。美味しい人参を作りたいと、夫婦で富良野の農家へ飛び込みで教えを受けに行ったこともあります。

経営の安定化を目指して始めたブロッコリー作りでは、地域の仲間と農業所得の向上に向けた取り組みを行っています。

長男も後継者として就農し、新たに花き栽培も始めました。農業改良普及センターが開催した農業簿記講座に参加したことがきっかけで、夫とともに経営運営を行っています。女性が経営に参画することはとても大切だと感じています。

農業と食の大切さを伝える、女性農業者グループ「くりさわマンマの会」を立ち上げ、郷土食の伝承や小学校での食育活動などを行っています。また、女性の視点に立ったおしゃれで機能性のある作業衣の作成や販売にも取り組んでいます。

指導農業士としてはまだ1年生ですが、これからも技術の向上と安定生産に向けた取り組みができるよう、一歩ずつ成長していきたいと考えています。

### 日西さんの活動紹介

#### ■栗沢ブロッコリー部会

水稻所得の低迷に対応し、平成19年からブロッコリーを生産技術の向上と安定生産に向け活動する会

#### ■くりさわマンマの会

農業と食の大切さを伝えるために活動している女性農業者グループ

- 【主な活動】
- 小学校での食育授業
  - 郷土食の伝承（笹寿司・笹団子など）
  - 地元農産物の料理研究とレシピ作成
  - 若いお母さん達との交流会

#### ■秋日和

女性の目線から農作業がしやすく、デザイン性のある作業衣を作成・販売  
女性農業者の3人が仲良く活動中！



いろいろな個性があるから  
いわみざわがおもしろい

## 岩見沢市に女性指導農業士が誕生

平成23年2月、岩見沢市で初めての女性\*指導農業士として、日西容子さんと池田美千子さんの二人が認定されました。

現在、市内で指導農業士に認定されているのは16人、このうち女性は2人です。北海道全体では675人、女性は54人となっています。

今号では、農業経営にも積極的に関わりながら、女性部活動を通じて農村女性の人材育成やネットワークづくりなど、多方面にわたって活動されている、指導農業士のお二人をご紹介します。



取材にあたっては、日頃から日西さん・池田さんと直接関わりを持ち、農業技術の指導や経営相談に応じるなど様々な支援をされている、空知農業改良普及センター専門普及指導員の佐久間さんと木田さんにも同席いただき、指導農業士について伺いました。また、当日は市民会議との交流会も実施しました。



### 指導農業士とは

地域農業を守り農村社会を活性化するためには、新規就農希望者を積極的に受入れ育てていくことが大切です。北海道では、就農希望者に対して、農業経営や農家生活についての知識や技術の習得に向けて研修を行い、新たな農業者の育成に努めている方々を「北海道指導農業士」として北海道知事が認定し、その活動を応援しています。

#### 【役割】

- 農業の担い手になろうとする者の研修受入、指導、助言を行い、道や市町村、農協等が行う次の事項について協力します。
- 新規就農希望者の研修受入及び新規就農者の定着の促進
- 女性農業者や青年農業者等への活動支援及び資質向上
- 地域農業の振興及び農村生活の向上

いけだ みちこ  
池田美千子さん



北海道指導農業士  
いわみざわ農協女性部幌向支部  
幌向ファーマーズ・幌向はつらつ夢倶楽部他  
北村砂浜で、水稻、秋小麦、ブロッコリー、トマト、南瓜、スイートコーンなどの栽培と合わせて、レストランが希望する野菜を栽培。



結婚して37年になりますが、結婚当初、自分の職業を話すことがとても嫌な時期がありました。

4人兄弟の3番目として農家に生まれ、農業をしていた夫と結婚したのですが、なぜか農家に引け目を感じていたのです。

ところが、子どもが生まれ、自分の作ったものを食べさせられるという喜びを感じた時に考え方が変わりました。農家であることに誇りを持つようになったのです。子どもは日本の宝だと思っています。

これまで、夫と夫の両親の4人で稲作をメインに堅実な経営を実践してきました。また、50~60種類の直売向けの野菜やレストラン等が希望する野菜を生産し、夫とともに経営の一部門を担っており、女性の積極的な経営参画の大切さを実感しています。

女性部活動としては、直売組織「幌向ファーマーズ」の立ち上げにもかわかり、Aコープ幌向店の「もぎたて市」として出店するなど、売り上げは順調に伸び、女性活動の活性化につながっています。「手づくり加工グループ」や加工販売グループ「幌向はつらつ夢倶楽部」を設立し、黒豆かりんとうの商品化ができました。

平成22年には、市の助成金を受けて自宅に農産物加工室「ジョイキッチン」を整備し、漬物や総菜などの加工販売に取り組み、所得の向上を目指しています。

指導農業士としてはまだまだ未熟ですが、これからも農業体験や収穫体験ツアーの受入れなど、食育活動の推進に向けた取り組みができるよう、努力を重ねていきたいと考えています。

### 池田さんの活動紹介

#### ■手作り加工グループ

自家用トマトジュースやケチャップの加工に取り組むグループ

#### ■幌向ファーマーズ

新鮮な朝採り野菜や農産加工品の販売を行う女性部の直売組織  
Aコープほろむい店の「もぎたて市」に出店中！

#### ■幌向はつらつ夢倶楽部

農産物の加工販売に取り組むグループ  
自家栽培した大豆・黒豆を使い「黒豆まるごとかりんとう」を商品化  
(冬期間限定 まちなか直売所にて販売)



# いつ起こるか分からない災害に備えて

## 安全・安心・快適な空間を用意しましょう！

「女性の視点による  
防災・災害復興のすすめ」より  
発行：岩見沢市企画室（男女共同参画担当）

避難所では、限られた空間に多くの人々が生活することになります。被災者にとって、安全で安心な空間を確保できるよう、様々な工夫をすることが大切です。非常時だから我慢するのではなく、非常時だからこそその工夫を、今のうちに始めてみませんか。



乳幼児のいる家族のために、授乳スペースや育児スペースを確保しましょう。



### 安全・安心・快適な空間の確保

ほんの少しの工夫と優しさで、被災者のプライバシーが尊重され、女性や子どもの安全と安心が守られます。

一人暮らしの高齢者や障がい者、乳幼児のいる家庭など、被災者の状況に応じて間仕切り等の配慮を行い、快適な居住スペースの確保に努めましょう。

女性や子どもの心身の健康を守るために、相談窓口を開設しましょう。

※これまでの大震災では、女性や子どもへの暴力や性犯罪が増加したという調査結果が報告されています。



困っていることは  
ありませんか？

男女別の更衣スペースを用意しましょう。

※女性用の更衣室には、鏡や女性用品を準備しておくとう便利です。



助かるわ



仮設トイレの設置については、女性や子どもの安全・安心に配慮した場所や通路を確保しましょう。

※女性専用トイレの設置に努めましょう。

## 男女がともに支えあう地域づくりをしましょう！

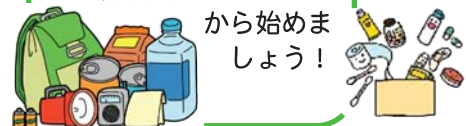
災害はいつ起こるか分かりません。

防災・災害復興の現場においては、男女が協働で対応できるよう、日ごろから、家庭や地域、職場などあらゆる場所で、男女がともに支えあうことができる、安全で安心な地域づくりに努めましょう。



### ポイントアドバイス

突然発生する災害にも、あわてずに対応できるよう、いざ！という時の備えを、日ごろから心がけることが大切です。まずは、防災用品のチェックから始めましょう！



いざ！という時のために！



防災手帳やカードには、家族の連絡先や健康保険証の番号など、必要なことを記入しておくとう安心です。

家庭や地域では、日ごろから避難場所や避難経路を決めておき、安全に非難できるように訓練しておくことが大切です。



## 男女のニーズの違いを把握して対応しましょう！



被災者の声をよく聴き、安全で安心な環境づくりの心がけましょう。

阪神淡路大震災・新潟県中越地震などから、災害下では女性がより被害を受けやすく、避難生活でも様々な困難に直面することが分かってきました。避難所等の運営については、被災者の声をよく聴き、男女のニーズの違いを把握して的確に対応できるような工夫が必要です。

- 避難所の運営には、男性と女性の責任者を配置しましょう。
- 避難所生活や将来の問題など、悩みやストレスを抱えている被災者のために、避難所内に各種相談窓口を開設しましょう。
- 生活者の視点に立ったニーズを把握できるよう、女性の意見を積極的に聞きましょう。
- 被災者が必要としている情報が、避難所のすべての人に正確に伝わるよう伝達方法を工夫しましょう。
- 高齢者や障がい者など、様々な困難を抱えている人に対する配慮をしましょう。
- 日常生活の中で女性がつくり上げてきたネットワークや、ご近所などの地域コミュニティを活用し、安否確認や避難所等での声かけを行いましょ。

## みんなで一緒に作業しましょう！

過去の災害発生時の経験から、男性は早い段階で職場へ復帰しますが、被災後の不便な生活環境のもとでは、家事や育児、家の後片付けなど、増大した家庭的責任が女性に集中することが明らかになっています。避難所や家庭、地域での作業等はみんなが協働で行うことが大切です。



- 食事の準備や後片づけ
- 支援物資等の配布
- ごみの処理
- トイレや洗面所など共有スペースの清掃
- 行政など関係機関との連絡
- 避難所や周辺の見回り
- 家の後片づけなどの復旧作業

### 作業のポイント

- 一人ひとりの個性や能力、才能・特技を活かしましょう。
- 一つひとつの活動（作業）については、性別にこだわることなく、男女が共に活動できるようにしましょう。
- みんなが作業を行うことができるよう、日中、夜間、休日等いろいろな時間帯に対応できるように工夫しましょう。

## 手づくり巾着で子どもたちを応援



市民会議では、東日本大震災で被災した女子児童へ、手づくりの巾着に生理用品とショーツを入れて送る取り組みを行いました。

巾着に支援品を入れることにしたのは、巾着がとても便利な袋として、いつまでも有効に使ってもらえると考えたからです。

真心あふれる手づくり巾着や支援品と一緒に「私たちも参加できてうれしい」という声がたくさん届けられました。



私たちが参加できて嬉しいです！

1日も早く届けることができるよう、被災地の教育委員会などにも連絡を入れて情報収集したのですが、被災地と連絡を取るのとはとても難しく、皆さんの思いを届ける相手を見つけることはなかなかできませんでした。

宮城県仙台市で活動している「絵本で笑顔を！プロジェクト」の代表から、「真心の品をお預かりし、大切にお届けしたいと考えております」という返事をいただいたのは、秋の気配が感じられる頃でした。

皆さんからお預かりした支援品と、折り紙や風船などをメッセージカードと一緒に送ることができました。

被災地の復興はこれからが本番です。これからも息の長い応援を、皆さんと一緒に続けたいと思います。



子どもたち喜んでくれるかな？



男女共同参画市民フォーラム 平成23年9月11日(日) 岩見沢平安閣

『多文化共生“新”時代～ちがいを楽しみ力に変える』と題し、スリランカ出身で「ペケボン」など、テレビでも活躍中の羽衣国際大学准教授 J.A.T.D. にしゃんたさんを講師に迎え、平成23年度の市民フォーラムを開催しました。



にしゃんたさんは、どれだけ「違い」に気づき束ねられるかそして、男性も女性も力を発揮するには乗り越えなければならない「3つの壁」について、自身の経験を交えながら、わかりやすくユーモアたっぷりに話してくださいました。

講演の後には、2009年に「社会人落語初代日本一決定戦」で準優勝した腕前の落語「青い目の町内会長さん」も披露していただき、会場は終始笑いに包まれていました。



第4期 女性のためのステップアップ講座 平成23年10月19日～11月16日 空知婦人会館

女性のためのステップアップ講座は、女性が自分らしさを大切にいきいきと活動することを目的に企画した講座です。

第1回「私の美味しい人生」  
フードデザイナー 若林 富士女 さん

第2回「花のお江戸と暮らしと風俗」  
歴史考証家 岸本 良信 さん

第3回「有機農業雑感」  
ビオファームなかわら 中村 修一 さん

第4回「北海道って面白い！故郷再発見の方法と楽しさ」  
ライター 井上 美香 さん

第5回「女性の体と健康～こころの健康を保つには～」  
市保健師 大橋 歌織 さん



今回の講座は、私たちが住む北海道を再発見するとともに、食の安全や大切さについて気づかされ、江戸の庶民の暮らしをとおして現代社会を改めて考え直すきっかけとなりました。

講座を共にした受講生一人ひとりのステップアップにつながったと思います。



まちづくり出前講座 平成23年10月1日(土) 幌向地区町会連絡協議会・12月11日(日) 新南町町内会女性福祉部



幌向地区町会連絡協議会

「まちづくりと女性の参加」をテーマに出前講座を行いました。幌向地区町会連絡協議会主催の「ふれあい講演会」では災害復興のリーフレットを資料に、会場の皆さんと対話をしながら、新南町町内会女性福祉部主催の「研修交流会」では、参加者によるロールプレイを取り入れながら、地域の特性を生かした男女協働のまちづくりについて理解していただく良い機会になりました。



新南町町内会女性福祉部

編集後記

東日本大震災から1年、岩手・宮城・福島など被災地の皆様の思いや願いを聞く機会が多く身につまされます。一日も早く安心して生活ができることを祈るのみです。

私たち男女共同参画プラン推進市民会議も、この情報誌を発刊することで今年度の締めくくりとなります。この1年間、市民会議メンバーで力を合わせて進めて参りました。

一つひとつの活動が市民の皆様にとどの程度啓発できたのかは定かではありませんが、今後とも息の長い活動を通して市民の皆様が岩見沢の住民でよかったという街づくりの一助になればとの思いで進めていきたいと思っております。



最後になりましたが、この情報誌を見てのご感想、ご意見等お寄せいただければ幸いです。

市民会議メンバー募集中!

市民会議は男女共同参画をテーマに、岩見沢市と協働で様々な取り組みを行っています。

現在、一緒に活動していただけるメンバーを募集しています。活動は不定期で、メンバーそれぞれのライフスタイルに合わせて活動しており、年齢や性別などは問いません。どなたでも気軽に事務局までご連絡下さい。

発行 岩見沢市企画財政部企画室  
〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
☎ 0126-23-4111(内線 422)  
E-mail: danjo@i-hamanasu.jp

ア・ライク  
VOL.10  
2012年3月

企画・編集 岩見沢市男女共同参画情報誌編集委員会  
(いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議)